

今でこそUSJ（ユニバーサル・スタジオ・ジャパン）は業績好調だが、一時期は経営危機に瀕していた。そこから独自のマーケティング手法を武器に、USJをV字回復へと導いた人物がいる。森岡毅（もりおか・つよし）さんである。再建成功の原点は20代にあるという森岡さんの若者へのメッセージを紹介する。

20代は仕事の面で「言わず嫌い」な人が多いが、やってみたら案外できるということが結構ある。だから、上司から「やれ」と言われたことは、まずは騙されたと思って一度やってみるべきだ。1日、2日ではなく、半年、1年続けて「やっぱり向いていないな」と思ったらそれ以上は追求しなくていい。

そうやって場数を踏み、自分の得意・不得意を見極めていくことが非常に重要だと思う。結果をより出すためには、自分の特徴を生かすしかないからだ。

20代の時に当たり障りのないことばかりやって、挫折も失敗も経験しないと、自分の強み・弱みは分からない。20代の特権とは、己の特徴を知るための様々な経験を貪欲に追求できることだろう。30代、40代になると立場的に大きな失敗はできなくなる。20代は失敗しても失うものは少なく、むしろ得られる成果のほうが多い。

ゆえに、徹底的にチャレンジして、あちこちにぶつかって、傷だらけになってほしい。その「傷」が「気づき」になり、人間を大きくしてくれる。

「迷った時は厳しいほうを取れ」これは私の父親の口癖で、父親はこの言葉通りの生き方を貫いてきた。私が大学生の時、父親の勤務先が倒産してしまったのだが、父親は給料も出ないのに会社に行き続け、来る日も来る日も部下の就職斡旋に奔走した。自分の就職も決まっていなのに、である。

当時は要領のわるい人だなと思っていたものの、父親の背中を見て育った私も、いつしか厳しい道を選択するようになった。

いま私が声を大にして伝えたいのは、人生の中で最も体力・気力に溢れた20代の時期に、自分が注ぎ込む仕事に対してワクワクしたくないか、ということだ。それは安心して楽に達成できることを毎日繰り返しては決して得られないと思う。ワクワク充実した人生を送るために、チャレンジは不可欠なのだ。自分にとって意味のあるチャレンジが何なのかを、しっかり考えていただきたい。

当然ながら、度が過ぎると人間は壊れてしまう。私自身もその瀬戸際を歩いたことが何度もある。ただ、壊れないようにと温存していてもチャレンジはできないし、自分にとってもう限界だと思う時、本当の限界はそこにはない。もっと先にある。

人間の脳は8対2くらいで楽なほうにバイアスをかけているという。だから厳しいほうに8割踏み込んでも大丈夫なのだ。

いかがであろう。これから20代を迎える人、今20代真っ只中の人、すでに20代を自分の人生の糧にしてきた人、思うところはそれぞれであろう。本日、10月16日より、例年よりも一か月遅れて就職試験が解禁となる。いよいよ高校3年生にとっての勝負が始まる。まずは来たるべく20代に向けて目の前のハードルを跳び越えてほしい。健闘を祈る。